

体不自由な人の着やすさ工夫



栗田佐穂子さん。ドレスは上下に分かれ、車いすに座った状態でも数分で着られる

体が不自由な人にも着やすく工夫された「ユニバーサルファッション」のショーが6月16日、川崎市多摩区総合庁舎で開かれる。ショーに出演するモデルも募集中だ。

車いすに座った状態で着られるウエディングドレス。腕が上がりなくても楽に袖を通せるシャツ。チャックやボタンなど、あちこちに工夫がちりばめられている。「諦めていた服を身につけた時、本当に楽しい、幸せというすてきなお顔になるんですよ」。企画したボランティアグループ「糸の詩」の栗田佐穂子代表(67)は目を細める。

栗田さんは服飾専門学校で教えている。きっかけは18年前、長男の交通事故。診察の度にズボンを脱いで骨折した足を見せる息子を見て、「恥ずかしいんじゃないか」とズボンの脇にファスナーを付け、けがの部分だけ出せるよう

にした。

病院内を見渡すと、体が不自由なために「着たい服が着られない」「自分で服が着られたら」と悩む人がたくさんいた。「相談を受け、何とかしてあげたい、と思うと自然とアイデアがわいてきて」と栗田さん。以来、講習会や展示会を開き、様々なアイデアを紹介してきた。ショーの企画も今年で13年目になる。栗田さんは「服でみんなを元気にしたい。まだまだ工夫は終わりません」と話す。

ショーは午後2時10分から。ショーの前に、栗田さんが既製服を着やすく手直しする方法について講演する。募集するモデルは、車いすを使用中でウエディングドレスやフォーマルドレスを着用希望の人、まひなどで服の着脱が不自由な人、シニアの男女でユニバーサルファッションに関心がある人。無料。6月6日締め切り。問い合わせ、申し込みは糸の詩事務局(044・911・2221)。(星井麻紀)

川崎で来月16日、ファッションショー

出演モデル募集／既製服手直し法の講演も